

埼玉経済

建築業「松伸」(八潮)

「仕事があつても受けられない」。いわゆる3K(きつい、汚い、危険)のイメージが先行し、慢性的な人手不足が続く建築業界。資材価格や運搬費の高騰で利益が出にくい環境下でも「常識を覆す」施工体制や勤務体系で奮闘する県内企業がある。八潮市のとび、鉄筋工事業「松伸」だ。

(足立英樹)

■実質賃上げ

今年4月から給与体系はそのままに1日の労働時間を1・5時間分短縮。出勤を30分遅く、退勤を1時間早くすることで、より働きやすい職場環境に整えた。事務員は完全週休2日制に移行。これにより実質的な賃上げを実現している。

■移動式工場

人手不足のさなか、仕事の一部を下請けに出すのが一般的とされるが、同社は約20人の直用部隊(社員)を抱えるため、元請けから

の排除」。事務職では昨年7月からパソコンスキルの向上を目的にeラーニングを導入。これまで紙ベースだった勤怠管理も自社アプリの開発で確認作業の効率化も図った。



臨時の移動式工場として現場に専用機械を持ち込み、鉄筋を加工する作業員

異例の働き方改革推進

の急な変更指示にも迅速に対応。条件さえ合えば、加工機械を現場に持ち込む「移動式工場」も展開する。長田哲也社長は「物流に依存しないため、災害復興現場では事業継続計画(BCP)の観点からも高い評価をいただいた」と自信を見せる。独自の配送ルートを持ち、資材運搬費の軽減にもつないでいる。

■当たり前を疑つ

同社は長時間労働や理不尽な上下関係、あいまいな評価基準など業界で「当たり前」とされがちな慣習も次々と改善。それまで主流だった日給制を月給制へと変更した。ほかにも企業型拠出年金や医療サポート制度、30年以上の勤続者に退職金1千万円支給など長く安心して働ける環境づくりに努めている。

これら待遇面の改善に生かされているのが、業界の常識に染まっていなかった元看護師の松本美幸会長の視点。入社3年以内で約4割が辞めると言われる建築業界で驚異の離職率4%台を達成している。長田社長は「建築業だから難しいのではなく、建築業だからこそのやり方を変えるべきだと考えている。現場を止めずにバックオフィスから変革を進めることで、新しい働き方を推進したい」と話している。